



～枕崎市教育委員会だより～

TEAMまくらざき

発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町 184 番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

「思い出」

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

各学校で児童生徒が生き生きと学んでいる姿を参観することができた地域が育む「かごしまの教育」県民週間で始まった 11 月が終わろうとしている。「秋があったかな？」と感じるぐらい寒くなるのが早かった。夏と冬以外、年々、四季の区別がつきにくくなってきたように感じる。あるテレビ番組のコメンテーターは、日本の魅力でもある「四季」が将来「二季」になるのではという話をしていた。「まさか」と思いながらも、地球温暖化が私たちの生活に及ぼす影響がスピードを増して迫ってくることを文字通り肌で感じる。

ところで、寒さの増すこの季節になると同様に増すのが食欲だ。私は特に「鍋もの」が好きで、栄養も採れ、味に深みが出るからと野菜をはじめ肉や魚介類とあれこれ具材を入れてしまう。食べ終わるとかなりのカロリーを摂取したのではないかと後悔しつつもそれを繰り返してしまう。それは、「鍋もの」が自分にとって思い出の味であるからかもしれない。今のようないわゆる「鍋の素」なるものはなかった時代に育った私にとって、我が家の「鍋もの」の味はしっかりと体が記憶している。

誰にも思い出の味がある。特に幼いころに母親が作ってくれた忘れられない手料理の味。毎日食べても飽きないぐらい好きだったその味がもう味わえないとなったとき、人は懐かしさを覚えるとともに、心にぽっかりと穴が開いたような寂しさを感じる。

味だけではない。思い出こせば、うれしかったこと、楽しかったこと、お世話になった人や大切な人との多種多様な思い出がよみがえる。そして、それらが多ければ多いほど、その日々が二度と帰ってこないという現実寂寥感（せきりょうかん）を覚えるのである。そんなとき、「むしろ、初めから思い出などないほうが良かったのに。そうすれば、これほどまでに寂しさを感じなくてすんだのに。」というマイナスな思いにさいなまれることもあるかも知れない。

確かに思い出が多ければ多いほど失った時の喪失感は大いだろう。しかし、それでも心に残る思い出があればあるだけ、その人の人生は豊かになるのではないだろうか。そして、それらはこれまで自分を見守ってくれた人や愛してくれていた人がいたという証であり、今後を生きていく温かい励ましにもなるだろうし、力にもなることだろう。

先日、久しぶりに母の作った煮しめを食べた。ふと、子供の頃、焚きたての鍋をのぞきこんで、上がる湯気と香りを楽しんでいた自分とそれを優しく見守る母の姿が思い出され、懐かしかった。母は既に 90 歳を超えたが、その味はまだまだ健在で、昔のままだった。いつまでもこの煮しめを味わいたいと思うとともに、おふくろの味という思い出とその言葉の意味を改めて噛みしめるひとときだった。

思い出は人や場面、味など人によってさまざまである。そして楽しかった思い出、辛かった思い出の一つひとつがその人を形づくっている。私自身も懐かしい思い出を大事に抱きつつ、これからもまた、周囲のかけがえのない人たちとの新たな思い出の一つでも多くつくっていきたい。

12月の行事予定

日	曜	行 事
1	月	図書館休館日
2	火	桜山高齢者市外研修 中生連兼任委員会②
3	水	市民大学講座⑥
4	木	会計年度任用職員研修会 市養護教諭研修会④
5	金	全九州中学校進路指導・キャリア教育研究大会(鹿児島大会)
6	土	南薩地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会 (南さつま市いにしへホール)
7	日	
8	月	図書館休館日
9	火	よりよい授業づくりに向けた研修担当者等研修会(知覧文化会館)
10	水	地区館連絡会⑨ 県教育委員会指定「学習者主体の授業」研究協力校 研究公開(万世中)
11	木	南薩地区専門高校フェスタ(知覧文化会館) 県学校ダンス発表会(カ交流セ)
12	金	二十歳のつどい実行委員会④
13	土	土曜授業
14	日	椋嶋十生誕120周年記念県図書ほっとフェス(県立図書館)
15	月	図書館休館日
16	火	特別支援学級担任等研修会③
17	水	市教頭研修会⑥
18	木	市校長研修会⑦
19	金	市民あいさつ運動
20	土	青少年育成の日
21	日	家庭の日 市民会館休館日
22	月	図書館休館日
23	火	2学期給食終了
24	水	小・中学校終業式
25	木	冬期休業(～1/7) 図書館整理日
26	金	二十歳のつどいリハーサル いじめ問題子供サミット レッツ・エンジョイ・イングリッシュデイスピーチ大会
27	土	地区館休館日
28	日	市民会館・地区公民館・図書館休館日
29	月	市民会館・地区公民館・図書館休館日
30	火	市民会館・地区公民館・図書館休館日
31	水	市民会館・地区公民館・図書館休館日

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

毎年 11 月 1 日～7 日は、県下の公立学校において、地域が育む「かごしまの教育」県民週間が開催されています。今年度もこれに合わせて市内の各小中学校で学校自由参観や文化祭が行われました。また学校によっては、地域のお年寄りとの交流をとおり、昔遊びや伝統文化にふれる時間を設定しているところもあり、子供たちの姿から充実した県民週間となったことを感じることができました。

来年度も皆様の学校への訪問をお待ちしております。



地区小中連携研究公開（別府小学校・別府中学校）

11 月 11 日（火）に別府中学校を会場に、別府小学校と別府中学校の「小中連携教育」研究公開を開催しました。市内外から 70 人以上の参加者があり、両校の取組を広く紹介することができました。

この研究は、「一小一中」の本市のよさを生かし、連携して校区における児童生徒の課題解決に向けて 2 か年で研究を進めていくものです。別府小・中学校では令和 6 年度から 7 年度にかけて「主体的に学びに向かう学習者の育成を目指して」をテーマに研究を進め、小・中学校で発達の段階に応じた共通実践を進めていきながら、小学校では「自らの学習を調整する授業づくり」、中学校では「ICT を効果的に活用した授業づくり」に焦点を当てて研究を進めてきました。

研究発表では、これまでの取組とその成果や課題を発表しました。研究授業では、それぞれの学校が研究において進めてきた実践を多く取り入れた授業（小学校：外国語科 中学校：数学）を行い、主体的に学習に取り組む児童生徒の姿が見られました。

分科会においても、参加者のみなさんが「学習者主体の授業」実現に向けたワークショップ型の授業研究を行い、授業における児童生徒の姿に迫った熱心な意見交換が行われるなど充実した研究公開となりました。



自転車安全利用モデル校（桜山中・別府中）

学校、家庭及び地域が連携した交通安全教育の推進により、交通ルールの周知徹底とマナーの向上を図り、自転車等による交通事故を防止する目的から、市内で自転車通学生がいる桜山中と別府中が「自転車安全利用モデル校」に指定されました。自転車は便利な乗り物である反面、誤った乗り方をすると命にかかわる事故につながります。

まずは、「自分の命は自分で守る」という意識をしっかりともち、安全運転に心掛けましょう。



ふれあい図書館まつり

11 月 23 日(日)に絵本作家の杉山亮さんをお迎えし、ふれあい図書館まつりが実施されました。杉山さんは「ミルキー杉山の名探偵シリーズ」などで人気の絵本作家です。

午前中は大人数による「ものがたりライブ」、午後からは少人数による「ワークショップ鉛筆ゲーム」が行われました。参加者の誰もがお話やゲームを楽しむことができたようです。また、杉山さんの本の展示や販売も行われ、本の楽しさを知り、本に親しむことができた 1 日になりました。



ものがたりライブ

～シリーズ特別支援教育～「初めて」が苦手な子供の支援

初めてのこと（場所、物、人、など）が苦手な子供はたくさんいます。このような場合、無理に指導すると、大人も子供も苦しみます。次のことを意識して、一緒にゆっくり取り組みましょう。

○ 事前に知らせて、安心感をつくる

事前に写真等で「どこに」「なにがある」を教えて安心感を作りましょう。

○ スモールステップで挑戦させる

初めての場所であれば、最初は「見るだけ」で成功とするなど、少しずつ挑戦しましょう。

○ 安心できる「セーフティネット」を作る

「頑張っている時に辛くなったら、ここまでで終わっていいよ」と逃げ道を示しましょう。

○ 振り返って、成功体験をともに喜ぶ

できたことを写真や日記で振り返り、成功体験をともに喜ぶことで、自信を付けさせましょう。